

第五節 區町村會ハ通常會ト臨時會トノ二類、別シ其定期
ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナ
ス但尙特例シ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件
ヲ講スルヲ得ス

第二章 撰舉

第七條 議員ヲ撰舉セントスルトキハ區長戸長ハ少ナクセ
五日以前ニ投票會ヲ開クコトヲ公告シ區役所戸長役場ニ
於テ投票ヲ為サムニ但便宜ニ依リ後所役場外ニ於テ投票
會ヲ開クコトヲ得

第八條 投票ハ區長戸長ヨリ付與シタル用紙ニ撰舉人自己
ノ住所姓名及ヒ被撰入ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ區
長戸長ニ出スヘン但投票ハ代人ニ託シ差出スモ妨ケナシ
第九條 投票ハ撰舉人ノ面前ニ於テ區長戸長之ヲ披聞シ最
多數ノ者ヲ以テ當選人トシ同數ノ者ハ年長ヲ取リ同年
ノ者ハ闇チ以テ之ヲ定ム

第十條 投票被聞終ルノ後區長戸長ハ當選人名簿ニ就テ投票
票ノ當否ヲ查シ又被撰入名簿ニ就テ當選人ノ當否ヲ查ス
若シ法コ原シ不適當ナル者アルカ或ハ當選人自ラ其擇ヲ
辭スルトキハ順次多數ノ者ヲ取ル

第十一條 當選人ノ當否ヲ裁定スルノ後區長戸長ハ其姓名ヲ其區町村内ニ公
人請書ヲ出シタル後區長戸長ハ其姓名ヲ其區町村内ニ公
告スヘシ

第十二條 議員ノ任期ハ六年トシ三年毎ニ全數ノ半ヲ改選
ス其第一回二年期ノ改選ヲ為スハ抽籤ヲ以テ其退任ノ者
ヲ定ム但前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第十三條 議員中區町村會法第十條ノ資格ヲ失スルガ又ハ
同議員在書ノ場合ニ遭遇スルカ其他總ナリト雖モ是ハ唯
コ之ニ代爾者ヲ擇舉スヘシ
(以下次號)

時事新報

叙任

○明治十七年四月廿四日

魚從七位

○明治十七年六月七日

兼任工部省技長 海軍権少佐司正七位 桐野 利邦

兼任東京大學教授 海軍権少佐司正七位 横井 善三

外國人旅行規程ノ制限ニ嚴守セザル可アズ

内地交通ノ便ヲ開ケハ外國人ノ内地旅行ヲ許セマルヲ得ズ
我國ヨリハ內地交通ノ便ヲ開ケタリ故ニ我國ヨリハ外國人
ノ内地旅行ヲ許セマルヲ得ズトヘ我輩ノ署ヲ紙上ニ記シ
タル論理ニシテ固ヨリ信シテ疑ハザル所ナリト雖モ是ハ唯
大勢ニ就テ詮シタルノニ今日ニ於テ苟モ此勢ニ從ヒ難キノ
事情アラハ其事情ノアランノ間ノハ人力ナシテ之ヲ制セマル
ナ得ズ抑ニ我國ガ三十年前諸外國ト修好通商ノ條約ヲ既結
之レニ例外ノ特典ヲ與ヘテ敢テ頗若スレバナク徒ニ外人ノ
内地ニ入ルヲ禁レバ國際交際ノ機構ナ知ラザルガ故ニ關稅法
裁判法等種々重要ナルモノニ至ク外國人ノ官ガ權威ニ
界ノ統約ハノ不滿足ナリカヘリ今更議論ヲ拂スハ假バ大

體シタ事務局ノ協約、及本件關係者ノ意見等を聽取候事、其結果、前記ノ
シト體セサガラニカレ無調ノ條約ナリ。外國人ニシテ外國人
權ヲ保有海關稅權ヲ付託セサレハ故に、其事項を本件ノ
ニ限リ而越ニシテ、海關稅權ヲ付託セサレハ故に、其事項を本件ノ
正スル處也。其餘均ノ項並上、於ニ内地旅行手續スル事項、
カナリ又東京開市場ニ在留スル外國人ノ旅行規則並其
ル所見ニシテ内地交遊ノ範圍タルニモ拘クヌカニ、獨ニ其
旅行手續カズル可ラサムナリ。

我開港場ニ於ニ旅行規程ナリ。定メルナルハ、海關稅ヲ詳
カナリ又東京開市場ニ在留スル外國人ノ旅行規則並其
ル所見ニシテ内地交遊ノ範圍タルニモ拘クヌカニ、獨ニ其
旅行手續カズル可ラサムナリ。

慶應三年丁卯十一月ニ約定シタルモノア。即チ其約定ノ第
十一條ニ江戸在留外國人は左に記せし境界の内に居る時、
次第たるべし即ち新利根川(或は江戸川と云ふ)口より北の
方金町の間所迄夫れより西の方水木戸街道に沿ひ千住宿大橋
迄夫れより居田川以南川上へ登り古谷上の御船山より小室
村、高倉村、小谷田村、萩原村、宮寺村、石高村、三木村、田中村
の諸村宿る沿ひて野村、北野村、御船山、日暮御所、五玉川口迄
を限りとすべしトア。外國人ノ旅行進歩ハ約約面々一旅
アスケ制限アルガ故ニ内地ニ、東京並々各開港場ニ過スル
鉄道線路ハ如何程ニ其數ヲ減セリトア。外國人ニシテ、其
ヲ其條約ヲ守ル可キハ勿論、我國人モ亦此ク此條約ヲ履行
シテ彼等ガ徒步騎馬スルト御車ニ拘スルトナ開ヘバ苟モ旅
行規程ニ達スレバ之ヲ跋テ一步スルコトモ許ス可ラズキテ、
我外務省ト各國公使トノ照會ニ於テ學術研究ト病氣療養ノ
爲メニハ外國人ナシテ旅行券ヲ請フナ内地ニ入フニルコ
チ許シ蓋クト羅モ是トテモ一々辰巳ヘグラハシムニハ旅行券
ル者ナヘダルトナレバ婦人小兒ニ至キハ、本連一葉、行持
所持スルニ否ヤ少々ク其邊ニ裏ナキノ得ル。開ヨリ本人ノ惡
意ニ出タルロハ非ズト無モ是夢ニ成開ヘテ開クテ、人ノ解
ノ常ニ免ランシヤル所ノモナシ。左レモ之ノ解説也。然ハ友人ノ開
開クルニ隨ヒ御術所持ト、病氣療養トヲ開ヘズ外國人ガ持
ニ入ルノ必至チ或ムカリ。御書ナシテ即フハ一日ニシテ往
返スル旅行ハ、一々旅行券ヲ購ムト御願申候ハ友人ノ開
引等ニテ俄ニ暫時ノ内地行ナリト立ナク本開港場ト御ツカ
識ヲ、旅行規程ノ解説ヲ附ス。對ナシ御スルヲツキテ、是事
レモ協約ニ對シテ解説ナシヤノナレハ解ノク之ヲ解クナ
レ可ラズ外國人ニシテ若ク之ヲ不適合ナリトセシ候。是事
是レ條約上ノ不適合ナレ、其不適合ヲ除クハ解説ヲ解説
スルノ外ナハフノ。

明治十七年六月十日 星期四

不斬ノ所爲
ノ書套ヲ演
苟モ今ノ條
ニハ無形ノ
ニハ無形ノ
ニハ無形ノ
異ニシ外
ヌルガ如
事ト外國
ナレバテ發
ヒ、或ハ以テ
シ日本人が
ニシ併セア
ズルナリ

○井上參議
出、豆州
山野内
外國外
向ひ
國へ向ひ
巡視
○裁判所經
視し、ラソ
りと、
○新嘉坡
日福井
島へ立寄
官署處へ
せしが近頃

年六月七日
少校長
學教授

月 九 日
事 新 報
海軍権少匠司正七位 桐野 利邦
海軍権少匠司正七位 横井 省三
開ケアハ外國人ノ内地旅行ヲ許サムルヲ得ズ
交通ノ便ヲ開セタリ故ニ我國ニテハ外國人
ササムルヲ得ズトヘ我輩ノ書ヲ紙上ニ陳シ
固ソリ信シテ疑ハザル所ナリト雖モ是ハ唯
ダルノヨ今日ニ於テ苟モ此勢ニ從ヒ難ヒノ
情ノアラン限ニハ人力ナ以テ之ニ制セナル
ガ三十年前諸外國ト修好通商ノ條約ニ取結
シサヌヘテ敢テ頗若スルノク従ニ外人ノ
レク爾海交原ノ機械ナ知ラザルガ故ニ關稅法
重要ナルモノニ至テハ外國人ノ官フガ成ニ
不都合千万ナカニ今更此ノ御スル役ハ大

雖モ箱根温泉ニ浴スル外國人一成ハ櫻樹園中見聞トモニ以
ル者ナヘタルノナレバ婦人小兒ニ至カアモ其邊ニ葉ナクササニ
所持スルナキ否ヤ少シト其邊ニ葉ナクササニ樹木固カ日本ノ易
志ニ出タルロハ非ズト然ニ是夢ニ見聞テ御名ニシム人那
ソ常ニ紀カレサル所ノモノナリ左ニテモ御名ニシム人那
開クルニ聞ト御術研修ト病氣療養トノ間ヘズ外間本ガ研究
ニ入ルノ必修ヲ成ルルノ事也ナシ而フハ一回日コソニ往
返スル旅行トハ一之旅行ヲ成ルト御身ナシ御ハ友人ノ引
引等ニケ俄ニ暫時ノ内地行ナ思ヒ立アタキ時節ト御ラズ
識ラズ旅行經路ノ御説ナ起スル對ナシ御スヨウラズ是處ニ就
レモ猶約ニ對シテ御説ナシモノナレカ甚ゾメ之ヲ御ナシ
シ可ラズ外國人ニシテ若キ之ヲ不適合ナリトセシ故、是處
是レ條約上ノ不適合ナレバ其不適合ヲ餘ノ小端附テ御記
スルノ外ナクフシノトモ

ル者ヲ擇舉スヘ
ル堵合ニ遭遇ナ

月廿四日 任
事 新 報

藤岡 市助

月廿七日
海軍権少匠司正七位 桐野 利邦
海軍権少匠司正七位 横井 省三

航行規程ノ制限ハ嚴守セザル可ラズ
開ケバ外國人ノ内地旅行ヲ許セムチ得大
交通ノ便セ開キタリ故ニ我國ニテハ外國人
セサルチ得ズトヘ我輩ノ書テ我紙上ニ陳々
回ヨリ信シテ疑ハザル所ナリト雖モ是ハ唯
アルノヨ今日ニ於ク苟モ此勢ニ從ヒ難キノ
情ノアラム限ヘハ人力ナ以テ之ヲ制セザル
ガ三十年前諸外國ト管好通商ノ無約ヲ互結
リ海外交際ノ模様ナ知ラズルガ故ニ關稅法
實質ナルモノニ至テ外國人ノ吉フガ儀ニ
其ヲ與ヘテ敢ク頼着スルヲナク徒ニ外人ノ
レタ爾而場ヨ航行規程ナ十里ト定メ故特
別規ニ給ヘリハレト約シテ三十年前既世
不都合千万ナリ内更故ニテ御スハ假ハズ

チ許モ量クト羅モ是トヲモ一々取扱ヘタハ羅ニハ旅行券
チ所持セズシテ内地ニ入シセノシナシモ云々列ア不拘ヘ
相州小田原ノ郭外宿勾川ノ東原ニハ無約實處ノ御札アリト
雖モ箱根温泉ニ浴スル外國人ニ成ハ根湯ナリ且御札ニモセ
ル者ナヘタルノナレハ婦人小兒ニ至キアモ總一葉行舟チ
所持スルヤ否ヤ少シタ其邊ニ葉ナカニ船便御カト本人ノ事
意ニ出タルノハ非ズト難ニ是夢ニ見聞モ根ノシム人情
ノ常ニ免カレザル所ノモナリ左列アモ總一葉行舟チ
開クルニ就ヒ通術研修ノ期業報酬ナク開ヘズ外國人ニ為施
ニ入ルノ必經ナ葛ツカガヌル事也ナル即フバ一回日ニシテ往
返スル旅行ニハ一ヶ月所費ノ額ナク兩箇ラクダハ友人ノ引
引等ニテ銀ニ暫特ノ内地行ナ思カ立ツアモ費用ナリ御札ア
誠ラズ旅行規程ノ別紙ナシ又スル可ツアモ費用ナリ
レモ現約ニ附ケシア相隔ニナレモナレカ敷ノゾニテ制セア
ル可ラズ外國人ニシテ若シ之ヲ不適合ナリトセソ哉、是故
是レ條約上ノ不適合ナレハ其不適合ヲ於クハ現約納マセ
スルノ外ナシラノ

我國人人信義